

抑制栽培用トマト適品種「桃太郎ヨーク」の特性

農業研究センター 農産園芸研究所 野菜部 八代研究室

担当者：村上尚穂 石田豊明

研究のねらい

抑制トマトの主要品種である「ハウス桃太郎」は収穫期間を通じて品質が高く安定しているが、第1果房の着果性、果実肥大等に問題を残している。そこで、より果実肥大性に優れている優良早生品種の選定を行った。

研究の成果

1 選定した品種

「桃太郎ヨーク」

2 特性概要

- (1) 果重は170~250gで「ハウス桃太郎」に比べ大玉である(図1)。
- (2) 収量は「ハウス桃太郎」に比べ上物果、総収量ともに多い(図2)。
- (3) 低段位から着果性に優れ、果実肥大が良いため、草勢は高節位で弱くなり、上段位になると空洞果等で品質が低下する傾向にある。このため、低段採りの栽培に適する(図3、図4)。
- (4) 糖度は「ハウス桃太郎」に比べ同等ないし若干低くなり、酸度はやや高い。

普及上の留意点

- 1 加温抑制栽培に適用する。
- 2 6段以上になると草勢が弱まり果実品質が低下する傾向があるため、長段採りは避け追肥を早めに行い草勢を維持する。

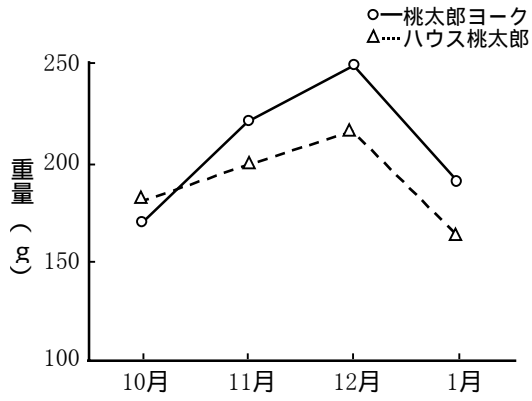


図1 平均1果重の推移 (平成7年度)

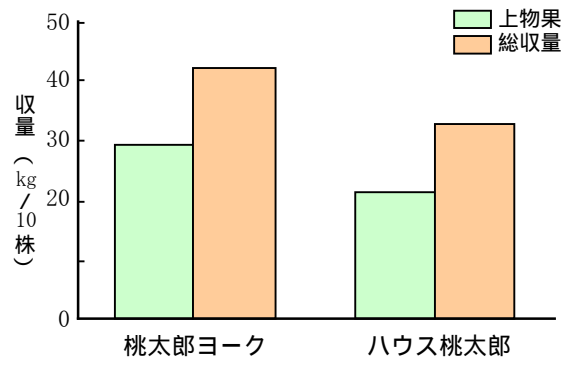


図2 収量 (平成6年度)

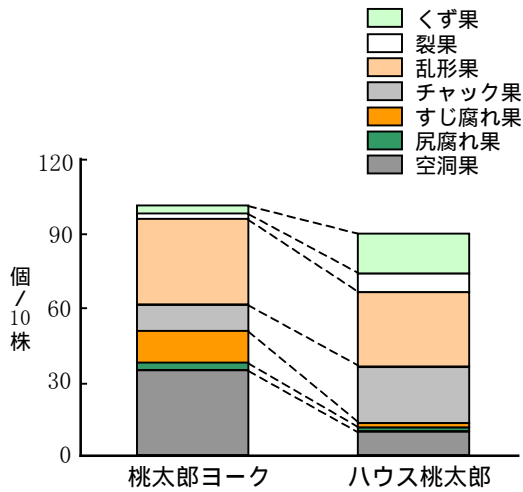


図3 不良果の内訳 (平成7年度)

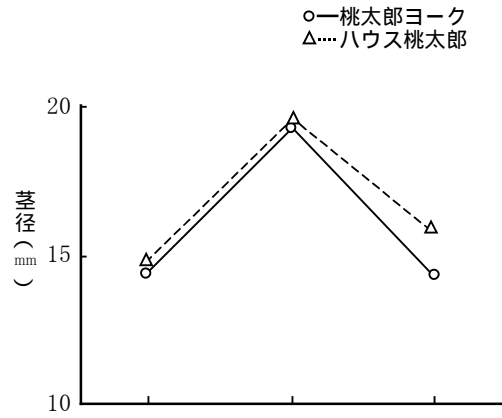


図4 茎径の推移 (平成7年度)